ジンシャリ

盆美ニュース JINSHARI

さいたま市
大宮盆栽美術館 vol.43 2022.10

収蔵品紹介　いわしで（A-049）

秋の紅葉シーズンを迎え、当館の所蔵盆栽も色鮮やかに季節の変化を教えてくれます。

今回の表紙は、黄葉が美しい「いわしで」です。複数の幹がバランスよく枝を広げ、白味をおびた幹肌が印象的な一鉢。明治の大富豪にして盆栽大家として知られた、三菱財閥二代目・岩崎弥之助の子、小弥太（1879～1945、四代目）の旧蔵品として知られる名品です。

推定樹齢　150年

「ジンシャリ」とは？

歳月を経た松柏盆栽は、幹や枝の一部が枯れて、そのままの形を残すことがあります。枝は「ジン（神）」、幹の部分は「シャリ（舎利）」と呼ばれる、盆栽の見どころのひとつです。ニュースレター「ジンシャリ」では、大宮盆栽美術館の見どころを紹介していきます。

展覧会紹介

■ 特別展「Life with Bonsai～はじめよう、盆栽のある暮らし」

本年度の特別展は、「Life with Bonsai～はじめよう、盆栽のある暮らし」をテーマに掲げました。本展では、盆栽との魅力的な暮らしを実践している各界著名人らのLife with Bonsai（盆栽との暮らし）を伝える展示を通して、盆栽との理想的な暮らしの在り方や、現代の私たちの生活における、新たな飾りの楽しみ方を提示していきます。

生活への自然の取入れや、造形美を愛でる調度品、伝統文化の継承や、伝統に潜む新しさの発見など、生あるものを育み、盆栽を楽しむリーディングパーソンのライフスタイルに、盆栽がもたらす、すてきな暮らしのエッセンスが見えてきます。

みなさんも、さあ、はじめてみませんか、Life with Bonsai盆栽のある生活を。

■ 企画展「第31回作家展(日本盆栽作家協会)」

一般社団法人日本盆栽作家協会の協力により、企画展「第31回作家展(日本盆栽作家協会)」を開催します。同協会の会長を務める山田登美男氏（大宮盆栽村清香園4代目園主）は、「盆栽は作家なくして作品なし、作品なくして芸術なし」と述べています。盆栽は自然と対話し、人の手が加わることで出来上がるもので、山田氏が述べているとおり、作品と盆栽作家のどちらが欠けても成り立ちません。日々の手入れを行っている盆栽作家にも思いを馳せながら、盆栽を鑑賞する機会になれば幸いです。

第30回作家展　真の間（山田登美男氏）

■ 季節の展示　盆栽展＜四季＞

当館は、生ある芸術、盆栽の美しさを讃え、四季折々の姿を「季節の展示　盆栽展〈四季〉」として来館者に伝えています。暑い夏が終わり、新たな季節を迎えるこの時季は、爽秋から錦秋にかけて、もみじや欅などの雑木盆栽が少しずつ色づき始め、季節とともに移ろいゆく木々の色合いによるグラデーションが楽しめます。さらに、秋の深まる先には、落葉して繊細な枝が露わとなる「寒樹の美」が待ち受けています。紅葉・黄葉の美しさから落葉後の枝の味わいまで、この時季ならでは盆栽の姿をお楽しみください。

山もみじ 銘「高雅」（A-075）

展覧会情報

〈コレクションギャラリー〉

■ 特別展「Life with Bonsai ～はじめよう、盆栽のある暮らし」
10月14日（金）～11月9日（水）

■ 五葉松 銘「日暮し」特別展示
11月3日（木祝）～11月9日（水）

■ 企画展「第 31 回作家展 (日本盆栽作家協会)」
11月25日（金）～12月14日（水）

〈企画展示室〉

■ 歴史と文化 盆栽クロニクル－年代記－ 収蔵品展、特別展特集展示
9月17日（土）～11月23日（水祝）

■ 企画展「子どもたちに伝えたい さいたまの盆栽」
12 月10日（土）～令和5年1月18日（水）

五葉松 銘「日暮し」特別展示

当館が所蔵する盆栽界の至宝・五葉松　銘「日暮し」（推定樹齢450年）を、今年も1週間限定で特別公開します。展示場所は昨年と同じく座敷飾りの「真の間」を予定。「日暮し」を飾る時にしか使用しない、名工・小川悠山作の卓（「富貴卓」）も必見です。

五葉松 銘「日暮し」（A-001）

大宮盆栽村 100 周年に向けて ～特集展示「九霞園初代・村田久造の足跡」開催報告

九霞園初代・村田久造（写真提供 九霞園）

去る令和4年2月5日から3月30日まで、企画展示室で開催した【歴史と文化】「盆栽クロニクル－年代記－」展において、「九霞園初代・村田久造の足跡」と題した特集展示を行いました。この特集展示は、昨年度から進めている、大宮盆栽村100周年に向けての資料調査・研究の成果の一部を公開したものです。

本特集展示では、今年が九霞園初代・村田久造氏（1902～1991）の生誕120年に当たる節目の年でもあることから、久造氏の足跡に関わって、①盆栽村10周年記念の「盆栽交換会台帳」（昭和9年）、②国後島における蝦夷松採取に関する写真（昭和10年頃）、③九霞園鋲打丸鉢（昭和初年）、④手製の根かき（昭和50年代）、⑤九霞園芳名帳（昭和20～30年代）の5つの資料を展示しました。

これらの展示資料は、村田久造氏と盆栽村との関係や村への貢献度（①・②）、九霞園オリジナルの盆器の制作や盆栽道具の開発といった道具類へのこだわり（③・④）、さらには久造氏の交遊関係の広さ（⑤）を示しており、いずれも戦前・戦後における稀代の盆栽家・村田久造氏の特徴がよく表れた資料であると思います。特に、④手製の根かきについては、久造氏が昭和52～55年に自家用として制作し、実際に使用していたもので、道具へのこだわりとともに、ひとつひとつの道具を丁寧に扱っていた久造氏の姿をうかがうことができました。実は、この根かきは2代目の勇氏に引き継がれ、勇氏も晩年まで愛用していたと言います。盆栽道具へのこだわりは3代目の行雄氏にも垣間見られますが、今回展示した根かきを通して、それが九霞園の”家風”であることがよく分かりました。

本誌41号でもお知らせしましたが、九霞園の資料調査については、これまで未確認の新たな資料が数多く見つかっています。今後の調査研究によって、村田久造氏の足跡がより鮮明になることが期待されますので、またの機会に紹介したいと思います。

（学芸員　林　進一郎）

普及活動紹介　3 年ぶりに開催した大盆栽まつりではボランティアによる鑑賞サポートを実施。夏休みワークショップこけ玉盆栽づくりは今年も好評でした！

5月3日から5日にかけて、大宮盆栽村では3年ぶりとなる大盆栽まつりが開催されました。当館では、盆栽庭園に一定時間ボランティアが常駐し、十分な感染対策をした上で、質問があったら声をかけて頂き、その質問に答えるという方法の「鑑賞サポート」を実施しました。「どうして盆栽は小さいままなの?」「白い部分はどうなっているの?」といった疑問から、病害虫についての専門的な質問など、内容は多岐にわたり、来館者の皆さんの盆栽への関心の高さを感じた3日間でした。ちなみに、質問回数は3日間でのべ304回でした。

夏休みワークショップの様子

小中学生の夏休み期間には、もみじのこけ玉盆栽づくりのワークショップを開催しました。昨年度はオンラインのみだった本講座も、今年は人数を制限して対面で実施しました。今回の講座では、時間を昨年より30分長く実施し、こけ玉盆栽の土台となる土づくりやもみじの剪定にも挑戦。ビニール袋の中で泥団子のように土をこねるところからスタートして、オリジナルのこけ玉盆栽を仕立てました。多くの子供たちにとって初めて体験する盆栽づくりでしたが、参加者アンケートには「まぜて、まるめたのが楽しかった」「こけ玉ぼんさいの知らなかったことに気づくことができた」「これからもだいじに育てていきたい」という声がありました。「盆栽づくりは楽しい!」という気持ちを、多くの子どもたちと共有できてよかったです。来年度はどんな夏休みワークショップができるのか、楽しみです。

（学芸員　石田　留美子）

①土台になる土を混ぜて

②できた土をのばします

③もみじと一緒に丸めて

④こけをはったら

⑤完成です！

イベントスケジュール event schedule 2022

… 休館日

10 October

日	月	火	水	木	金	土
						1
2 ST	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14 植替	15 ST 植替
16 子ども WS	17	18	19	20	21	22 実技
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11 November

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6 ST	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19 ST
20 子ども WS	21	22	23	24	25	26 実技
27	28	29	30			

12 December

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4 ST	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17 ST
18 子ども WS	19	20	21	22	23	24 実技
25	26	27	28	29	30	31

12月29日～1月3日 年末年始休館

展覧会

〈コレクションギャラリー〉

季節の展示　盆栽展＜四季＞	10/ 1（土）▶ 10/12（水）
	11/ 11（金）▶ 11/23（水祝）
	12/ 16（金）▶ 12/28（水）
特別展「Life with Bonsai ～はじめよう、盆栽のある暮らし」	10/14（金）▶ 11/9（水）
五葉松 銘「日暮し」特別展示	11/3（木祝）▶ 11/9（水）
企画展「第31回作家展（日本盆栽作家協会）」	11/25（金）▶ 12/14（水）

〈企画展示室〉

歴史と文化 盆栽クロニクル ー年代記ー	9/17（土）▶ 11/23（水祝）
企画展「子どもたちに伝えたい さいたまの盆栽」	12/10（土）▶ 令和5年 1/18（水）

定例イベント

ST	スライドトーク	13:30～
子ども	子ども向けワークショップ	10:00～11:30 ※
WS	盆栽ワークショップ	14:00～15:30 ※
実技	盆栽実技	13:30～14:30

イベント

植替	盆栽植え替えデー	9:30～11:30／13:30～15:30 ※

※は事前申込み。申込方法など詳細は当館ホームページをご覧ください。

電車利用　JR宇都宮線「土呂駅」下車　東口より徒歩5分
東武アーバンパークライン（野田線）
「大宮公園駅」下車　徒歩10分

車利用　首都高速埼玉新都心線「新都心西」出口より約6km
東北自動車道「岩槻」出口より約9km
駐車場：一般車両39台（2時間まで無料）
大型車3台（880円）、障害者用2台（無料）

開館時間　9:00～16:30（3月～10月）／9:00～16:00（11月～2月）※入館は30分前まで
休館日　木曜日※祝日の場合は開館、年末年始、臨時休館日あり
観覧料　一般　310円（200円）
高大生・65歳以上　150円（100円）
小中学生　100円（50円）
＊障害者手帳をお持ちの方と付き添いの方一名は半額
＊（　）内は20名以上の団体料金

年間パスポート好評発売中！
一般 1,040円／高大生・65歳以上 520円／小中生 310円

発行　さいたま市大宮盆栽美術館

〒331－0804
埼玉県さいたま市北区土呂町2－24－3
TEL 048-780-2091　FAX 048-668-2323
https://www.bonsai-art-museum.jp

〔ホームページ〕

さいたま市 大宮盆栽美術館 Bonsai Art Museum

このリーフレットは10,000部作成し、1部当たりの印刷経費は24円です。